

大学運営会議議事録

開催日 令和5年9月14日(木) 午後2時00分から午後2時23分まで
及び場所 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施

出欠状況 出席:33名 欠席:7名

1 報告事項

(1)生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学 2023 の開催について

(2)令和5年度(2023年度)オープンキャンパス実施報告

① 静岡県立大学 ② 静岡県立大学短期大学部

(3)「県民の日」事業 開催報告について

① 静岡県立大学 ② 静岡県立大学短期大学部

2 その他

・前回議事録(案)の確認

令和5年7月の大学運営会議議事録(案)について、案のとおり承認された。

1 報告事項

(1) 生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学 2023 の開催について(説明者:渡邊副学長)

昨年度まで開催してきた「静岡健康長寿学術フォーラム」を、今年度から「生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学 2023」と称し、リニューアルした形で開催する。本学が運営主体となり、他の県内大学にも協力いただく形をとる。

今年は11月17日(金)のプレセッション、18日(土)のメインセッション、2日間の開催となる。テーマは「シン・時代を美しく安全に生きる」とし、記念講演、シンポジウム、高校生の研究セッション等を草薙キャンパスで開催する。

11月17日(金)のプレセッションは、従来4月の開学記念日に開催をしていた「USフォーラム」を開催し、サイエンスフェスと同時開催とする。「USフォーラム」は、静岡県立大学の学内競争的資金による研究成果発表を、初めて学外公開するという形になった。該当する研究件数296件に対し、口頭発表64件、ポスター発表48件の合計112件、全体の40%程度の発表となる。皆さんの参加登録をお願いする。

18日(土)のメインセッションでは、始めに神戸市看護大学前学長の南先生が「地域の Well-being を目指す「地元創成看護学」」という演題で、記念講演を実施する。午後には「シン・時代を美しく安全に生きる」というテーマを基に、4大学からシンポジストを招き、シンポジウムを開催する。また、シンポジウムと並行し、高校生による研究セッションも開催する。研究セッション会場では、4大学の特色ある取組を紹介するパネル展示を予定している。本学からは薬草園の協力を得て、パネル展示を行う。

今回は「USフォーラム」と「サイエンスフェス」の同時開催するため、全教職員の参加登録をお願いする。

(2) 令和5年度(2023年度)オープンキャンパス実施報告

① 静岡県立大学(説明者:細川学生部長)

8月7日から10日の4日間にわたり、草薙キャンパスでオープンキャンパスを開催した。2019年以来、4年ぶりの通常開催となった。密集を避けるため、参加人数は、薬学部で1,000名、他学部で500名ずつと、それぞれ定員を設ける形での開催とした。

申込者の内訳は、高校生1,500人、保護者650人で、参加者は申込者全体の9割弱。参加者の割合は、高校生が8割、保護者が2割となった。

食品栄養科学部は、オンライン相談会も同時開催した。

今回は「学生ファースト」を基本とし、保護者には待機所を設け、模擬授業、施設見学を行う際には学生が中心となるよう、各学部で工夫して実施した。実施内容、各学部の実施内容や参加率は記載のとおり。

各学部、事務スタッフの方々には、水のペットボトルを配布していただくなど、暑さ対策で御尽力いただき、感謝申し上げます。

参加者数の推移について、2015年から2016年にかけて、薬学部の参加人数が増加しているが、これは2016年に薬学部が二部制での開催を開始したためである。各学部で定員を設けていることもあり、今回は新型コロナウイルス感染症発生前の参加者の約6割の参加人数となっている。今後も感染症などの状況を勘案し、次年度以降、開催方法や定員などを検討する。

② 静岡県立大学短期大学部(説明者:林短期大学部学生部長)

対面式でのオープンキャンパスを、7月29日(土)に開催した。実施形態は午前・午後の二部制とし、事前申込制、各回170名を上限に設定した。定員は、昨年の実績及び学科別の説明会で対応できる人数を考慮し、設定した。

参加者数の特徴として、高校生の参加者数199名のうち、109名が高校3年生、残り約半数の90名を高校1、2年生が占めており、昨年度と比べると高校1、2年生の割合が増えている。この結果を踏まえ、今後の入試・広報のあり方、ターゲットを短期大学部全体で参考にしていく。

また、今年度は初めて「学食ランチ体験」を開催した。本体験は、アンケート結果でも好評だったため、次年度以降も継続していく予定である。

動画配信は、対面式でのオープンキャンパスから約1週間後の8月4日(金)から公開を開始した。

学科紹介等の動画配信は、8月4日(金)から来年3月31日(日)までの公開の予定としている。8月31日(木)現在の視聴回数は記載のとおり。学科紹介の動画再生回数が特に増えている。

模擬講義の動画配信は、8月4日(金)から11月30日(木)までとする。公開期間は、総合型選抜や学校推薦型選抜を利用する受験生の事前準備期間に配慮し、この日程に設定している。本動画は短期大学部のホームページで公開している。

(3) 「県民の日」事業 開催報告について

① 静岡県立大学(説明者:大久保広報委員長、山下看護学部長)

薬学部・食品栄養科学部・国際関係学部・経営情報学部は、8月22日の午後に、草薙キャン

ンパスで「夏休み県大ツアー」を実施した。

県内の小中学生（保護者同伴）で募集をかけ、113名の申込があり、79名が参加した。

開会式で尾池学長が開会挨拶し、その後参加者を4グループに分け、学生広報大使の5名がツアーコンダクターになる形で、草薙キャンパス内を案内した。案内場所は薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、附属図書館の5か所で、ダブルブッキングしないプログラムとした。

先生方にも大変御尽力いただいたが、学生は非常に子供たちの相手が上手く、子供たちをチアアップしながら、楽しい実験、イベントへの参加を積極的に呼び掛けていた。

参加者の感想でも、8割以上が「満足」・「ほぼ満足」と回答しており、参加者の9割が「ツアーにまた参加したい」と回答している。

看護学部は、8月21日の午前に小鹿キャンパスで「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」と題して、3つのイベントを開催した。詳細については、看護学部の山下先生から説明をお願いする。

（説明者：大久保広報委員長）

従来は草薙キャンパスでイベントを実施していたが、コロナ禍も明けたということで、初めて小鹿キャンパスでの開催を企画し、3つのイベントを実施した。

定員を上回る申込があり、参加者人数は55名であった。

3つのイベント（講座）以外に、食品栄養科学部の市川陽子教授や学生にも協力いただき、栄養相談等を実施したほか、静岡済生会総合病院の医師、看護師の方の協力も得て、健康相談等を実施した。

いずれのイベントも非常に好評で、学生有志もイベントに参加し、学生にとっても地域の方と交流する貴重な機会になったという感想があった。

（説明者：山下看護学部長）

<意見>

・私も血圧を測ることや、栄養指導を受けることなどの体験をし、楽しく過ごせた。（議長）

<補足説明>

・経営情報学部のイベント内容について、「ミニ四駆体験」と記載されているが、単にミニ四駆で遊んでいたというわけではなく、「ミニ四駆でIoTを体験しよう」ということで、スマートフォンからミニ四駆の速さを制御すること（速さを変える）などの操縦を、IoTの講義をした後に体験していただいた。（構成員）

② 静岡県立大学短期大学部（説明者：栗田事務局次長兼短期大学部事務部長）

短期大学部では、県民の日の8月21日に「県短わくわくツアー2023」を開催した。

今年度は、園児、小・中学生、保護者合わせて33人の方に参加いただき、当日の様子はテレビでも取り上げられた。

冒頭の学長挨拶に続き、実習室を会場とし、各学科・専攻が用意した4つの講義を順番に体験することで、短期大学部各学科の取組等について知っていただく機会とした。

2 その他

ハラスメント対策について（説明者：尾池議長）

以前、ハラスメント対策の制度に関する意見を求めるコメントを出したことがあり、多くの方から御意見をいただいた。

数日前には、公立大学協会東海地区の会議に出席し、その場でも文部科学省からの強い要請があることの報告があり、ハラスメント対策を進めるようにという助言をいただいた。

学内でも色々と御意見をいただき、事例も報告いただいたため、A4 用紙 3 枚ほどに項目をまとめ、理事、事務局長もお立ち会いのもと、先日の副学長会議で指示をさせていただいた。

内容は、現在行われている本学のハラスメント対策のフローチャートを見ていただければ分かるが、フローが煩雑で、様々な部分で欠点があるということがはっきりしたため、具体的に例を挙げると、被害者と思われる方、あるいはそれを発見した方が、直接理事長・学長に訴えることができるというルートを作ることを考えて欲しい。また、理事長・学長が受けた報告に対して、例えば、学部長にその処置を直接指示することができるルートを設けるなど、制度として見直しをしていただきたいと依頼した。まずは、事務的に制度の見直しをしていただき、委員会で議論していただきたい。

最近では文部科学省から国立大学に対して、ハラスメントに関する詳しい調査を実施したということで、東海地区の会議の中でも具体的なハラスメント対策等の事例が挙げられた。

ハラスメント対策についてどのようなことをやっているかという、全国の調査をした結果を分析し、その中で、モデルケースを紹介するということがあった。

具体的に広島大学と琉球大学の事例を見ると、モデルとして非常に良いのではないかと提示もあったので、それを事務方にお示しした上で、制度の見直しに取り掛かって欲しいと依頼した次第である。

引き続き御意見をいただきたいという点と、具体的な制度の改修に向け、動き出している点の報告とさせていただきたい。

<意見>

・理事長・学長が全体のリーダーシップをとり、ハラスメント対策の体系を考え直していくというのは大変結構だと思う。しかし、従来のシステムに直接アピールするルート（方法）がなかったからといって、理事長・学長に直接アピールをするという方法は、かなりリスクが伴っていると思うので、慎重に進めていく必要があると考える。

理事長・学長にアピールが集中する可能性があるということ。また、その対応を誤ると、理事長・学長がハラスメントの対象になる可能性があるかと懸念している。（構成員）

<回答>

・本大学は、理事長の行動等を確認する制度の確立ができておらず、コンプライアンスがその点で欠けているということを申し上げたこともあるが、悪用される制度になってはいけないので、特にどの場合にということを明記することも、制度上は必要だと思っている。

この機会に議論いただきたいということが目的なので、引き続きお願いする。（説明者）

担当：経営財務室 市野 雄基